

編集後記

本誌「大分県地方史」も今号で九五号を数えることになった。昭和五年度中に一〇〇号を迎えるわけである。昭和二九年一〇月に先輩諸氏によって創刊号が発行されてから二六年余を経て、一〇〇号にあと一步で手がとどく所までたどり着くことができた。これも会員諸氏のご協力の賜物である。本誌発展のためになお一層のご協力をお願いしたいものである。

本号には中山重記氏の「幕藩体制下における宇佐宮造営について」をはじめ、高原三郎氏、豊田寛三氏・小林美恵子氏の論文と、赤峯重信氏、浅野勝氏の研究ノートを収録することができた。

中山氏の論文は、幕藩体制下での宇佐宮造営がいかに難事業であったか論証されたものであり、高原氏の「近世の大分県下の境目出入（論争）について」は、丹念に境目出入を調査され、小藩分立から生じた問題点に焦点をあてたものでともに興味深い研究である。豊田・小林両氏の「肥後領キリシタンの捕縛について」は、キリシタン弾圧は幕藩体制確立のた

めの好材料として利用されたものであるという。傾聴すべき論稿である。赤峯氏の「銀札の実勢について」は氏のライフワークである貨幣研究の一端であり、本県では新分野の研究である。一日も早い集大成が望まれる。浅野勝氏の「大分県における明治期の養蚕製糸業」も新分野の研究である。今後を期待したい。

(佐藤記)

昭和五五年一月二五日印刷

昭和五五年一月三一日発行

大分県地方史 第九五号

編集人

佐藤 満 洋

発行人

渡辺 澄 夫

印刷人

高井 久 雄

大分市上野町七番二十五号

印刷所 三恵印刷株式会社

電話 ④〇一三三

大分市且ノ原七〇〇 千八七〇一一

大分大学教育学部国史研究室内

発行所 大分県地方史研究会

(振替下関五二九四番)